

令和6年度 社会福祉法人 和習会 事業報告書

1 全体

社会的な不安定感が継続し物価高騰も序盤であると思われるなか、法人運営にも多様かつ多大な工夫が必要となる時期を迎えている。今年度は、喫緊の課題に取り組みつつ、中長期的な視点に基づき多様化する運営ニーズへの基礎的な対策に努めた。

まず、今期は3年に1度の介護保険法の改正にあたり、基準変更や加算取得等への適応について、各事業所において主体的に管理・発展することが可能となるよう、各々の現況に合わせた体制整備に努めた。その結果、最新情報や正確な基準解釈に基づいた対策について事業所内で適宜の調整を図ることができ、外部への発信や関係機関への必要な手続き等が円滑に進んだ。

運営・経営面の観点においては、社会構造の変化に基づく各種経費の増大に歯止めがかからず、抜本的な収入増大が見込まれない状況に対し、法改正後、将来性を考慮した加算取得について僅かでも工夫して収入確保と取得を可能とする体制の確立を図り、経費節減と併せて運営安定化の基礎作りに取り組んだ。

また、今改正の特徴である介護職員の人材確保・定着対策等が目的とされている「生産性向上」への取組が表面化し、職員の負担軽減策や業務の効率化等を図った。

実際には、既存システムの見直しや新たな取り組みの検討を行うための委員会を特養部門に設置し、他の事業所においても検討の場を設け、更に拠点全体としての取り組み会議の開催など、職場環境の調整のための体制を構築した。

これら現況の人材や就労の充実についての対策と併せて、福祉業界にとって新たな学生や一般からの就労の見通しが不透明と見込まれるため、次年度からは外国人留学生の育成を開始することとした。留学生の受入にあたり、生活面・仕事面等で長期的なサポートが必要とされ、各担当の職員が役割を持ち密着した支援を行う態勢を整えた。

その他、施設においては生活環境の回復を目指して面会制限の緩和、行事や各種の参加等の拡大を図り、利用者の活動の幅を広げることで生活の質の向上を図った。

このことは、コミュニケーションの機会制限など閉鎖的となりがちで利用者支援の方向性の模索に限界が見えていた職員にとっても、新たな目標やモチベーション作りに繋がった。また、認知症カフェやボランティアなどの地域交流の活動範囲を広げ、感染症対策のため過度にシステム化された業務形態からの脱却へのスタートとなった。

2 活動報告

令和6年5月22日	消防立入検査
令和6年6月20日	第1回 防災訓練実施
令和6年7月23日	地域密着型 通所介護運営推進会議
令和6年12月9日	第2回 防災訓練実施
令和7年2月20日	地域密着型 通所介護運営推進会議
令和7年3月11日	認知症カフェ(和みカフェ)開催